

TOPICS

腎臓内科

乙訓地域唯一の日本腎臓学会認定施設です

腎臓内科 医長 上野 里紗



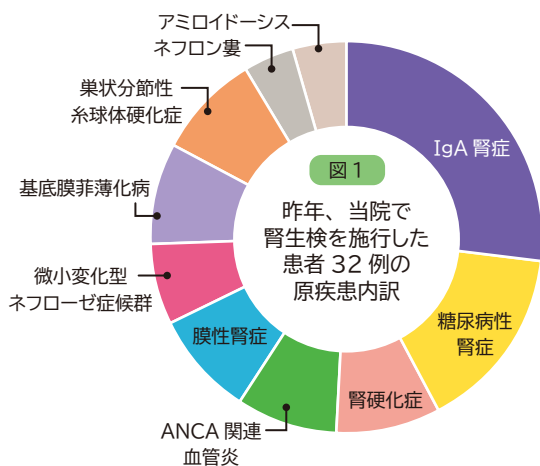
早いもので当院に私共腎臓内科が新設され1年が過ぎました。この1年の間に諸先生方よりたくさんご紹介いただき、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

現在腎臓内科は、常勤医師2名（上野 里紗、木谷 昂志：2020年4月着任 平成21年卒）で運営し、今年度より乙訓地域唯一の日本腎臓学会認定施設に承認されました。また、私共の予想を遥かに超え、この地域での慢性腎不全患者さんや透析患者さんの需要が高く、2020年1月よりまだ2床ではありますが透析室も急遽新設されました。

今回本号では、この1年で腎臓内科が何をできるようになったのか、そしてこれから腎臓内科にはもっと何ができるのか、何をしたいのかを紹介させていただきたいと思っております。私が着任した当初、腎臓内科は主に3つの柱でやっていきたいと紹介させていただきました。その3つの柱とは、①腎炎 ②慢性腎不全 ③透析 です。

1 | 腎炎

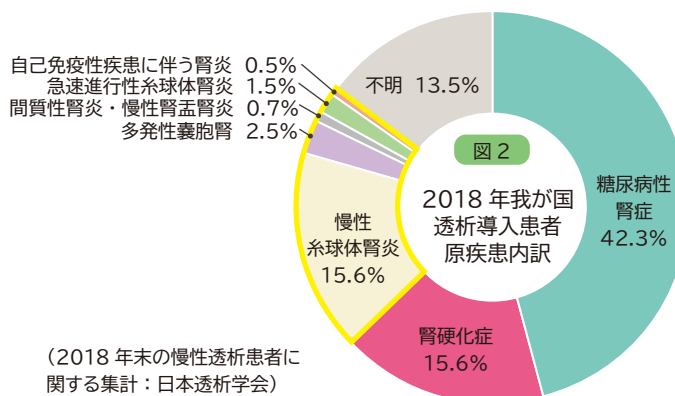
尿検査異常から腎炎を疑い去年度32例の腎生検を施行しました。腎生検にて診断し得た原疾患の内訳は図1をご参照ください。尿蛋白や尿潜血という『腎臓のなみだ』からこれらの疾患を見つけ出し、早期に治療に結び付けることができました。私共は、『腎臓のなみだ』である尿蛋白・尿潜血が出始めたところが一番重要であり、これを見逃さないことが大切と考えております。ぜひとも今後も尿検査を施行していただき尿蛋白や尿潜血が持続する患者様がおられましたら、ご紹介いただければ幸甚に存じます。



2 | 慢性腎不全

慢性腎不全と言えば…治せない・どうすることもできない・透析を待つしかない、といったイメージがおそらく先生方にもあるのではないのでしょうか。確かに残念ながら悪くなった腎臓を治すことは今の医療ではできません。しかしちゃんと介入すれば、どうにかできる患者さんは一定数おられ、透析を遅らせる・透析を免れる患者さんはいます。ではどうにかできるとはどうできるのか・・・

まずは図2をご覧ください。2018年度の我が国で透析導入された患者の原疾患の内訳です。この図の中の黄色で囲まれた部分は、早く見つけ治療すれば治すことができる、もしくは進行を遅らせることができる疾患です。つまりこれらの疾患をしっかりと見つけて治療すれば、2018年度の透析患者さんは約22%を減少させることができたかもしれません（少し大袈裟ですが）。私共は慢性腎不全の患者さんに対し、まず慢性腎不全の原因にこれらの疾患が隠れていないか、できる範囲で精査を行います。そして腎炎の可能性が高く腎萎縮が重度でなければ腎生検を施行、診断し、治療につなげていきます。



(2018年末の慢性透析患者に関する集計：日本透析学会)



社会福祉法人 恩賜財団 済生会京都府病院

〒617-0814 長岡京市今里南平尾8番地

地域医療支援室

TEL 075-956-3825
FAX 075-956-3826

受付時間（原則）：平日 8:45～19:30（木曜日は17:00まで）

